



明石海峡大橋
Akashi Kaikyo Bridge

明石市・バレホ市
姉妹都市提携 **50** 年の
あゆみ

アルフレッド・ザンパ記念橋
Alfred Zampa Memorial Bridge





目 次 CONTENTS

- ◆姉妹都市提携とは What's The Sister City Affiliation ? 1
- ◆バレーホ市との姉妹都市提携
 - Sister City Affiliation between Akashi City and Vallejo City 2
- ◆バレーホ市の紹介 Profile of Vallejo City 3
- ◆交流のあゆみ Footprints of Exchanges 7
- ◆ごあいさつ Greetings 35
 - ・明石市長 Mayor, Akashi City
 - ・バレーホ市長 Mayor, Vallejo City
- ◆お祝いのことば Congratulations 37
 - ・明石市議会議長 Chairperson, Akashi City Council
 - ・バレーホ市議会議員 Member, Vallejo City Council
- ◆ごあいさつ Messages 39
 - ・明石市国際交流協会会長 President, Akashi International Association
 - ・バレーホ姉妹都市協会会長 President, Vallejo Sister City Association
 - ・バレーホ姉妹都市委員会委員長 Chairperson, Vallejo Sister City Commission
- ◆日米間の都市提携一覧
 - List of Local Government Affiliations between Japan and U. S. A. ... 42
- ◆明石市の紹介 Profile of Akashi City 49

姉妹都市提携とは

沿 革

第2次世界大戦が終わったとき「荒廃したヨーロッパを救おう」という声がアメリカ国民の中から起り、アメリカのニューヨーク州ダンケルク市の人々が、同名の都市で惨たんたる戦災を受けたフランスのダンケルク市の人々を援助することを決めました。そして、励ましの手紙や贈り物を交換しているうちに両市民の間に温かい友情が結ばれるようになりました。これが、姉妹都市提携の始まりです。

その後、ヨーロッパの復興が一段落した1955年（昭和30年）頃から国際親善、文化交流、相互理解の運動として、中南米からアジアへとヨーロッパ以外の各国へ広がりました。

1956年（昭和31年）アメリカのアイゼンハワー大統領が、“People-to-People 運動”として都市提携を奨励したので、この頃からこの運動の普及発展に拍車がかかりました。わが国においても、現在、海外の自治体との姉妹都市提携が1,700以上も成立しており、相互の友情と親善を深めています。

目的と意義

都市提携とは、市民の盛り上がる力によって結ばれた二つの都市が、積極的に文化や経済の交流をはかりながら人種と国境を越えた友愛精神を育て、風俗習慣の相違から起こりがちな誤解や偏見を取り除いて国際間の理解と親善を深め、世界の平和に役立てようとするものです。しかもこの交流が、国家間の外交という形式を離れて、純粹に民間の運動として市民対市民の運動“People to People”の精神に基づいて行われるところに都市提携の大きな意義があります。

市民の相互交流が緊密になるに従って、異なった環境に対する正しい理解と、共通の善意と友情に対する信頼が生まれ大きくなります。経済、交通、通信等様々な分野で国際化が進むなかで、戦争の惨禍の教訓である都市提携が理解と尊敬と友情に基づく新しい人間関係の環を拡げ、平和を愛好する世界の市民の中で大きな役割を果たしています。



50周年記念パーティーにて

バレホ市との姉妹都市提携

提携年月日

1968年（昭和43年）12月9日 <明石・バレホ両市議会において可決>

提携の動機と経過

明石市は1969年の市制50周年を迎えるにあたって、その記念事業として姉妹都市提携を計画していました。

1967年秋、吉川政雄市長は旧知の間柄であるウォレス・ジョンソン パークレー市長が来日された際、姉妹都市の斡旋を同氏に依頼しました。

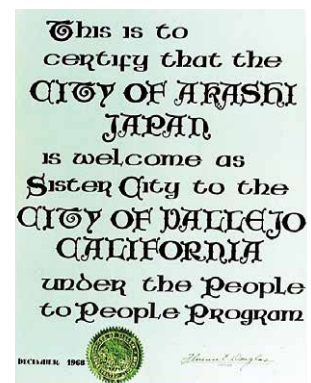
その後、サンフランシスコ駐在の日本領事の仲介により、カリフォルニア州バレホ市と明石市との縁結びの話が進められました。

両市においては積極的に姉妹都市の提携について検討を進め、明石市は1968年12月9日の市議会で姉妹都市提携案を可決しました。奇しくも、同12月9日バレホ市においても市議会で可決されました。

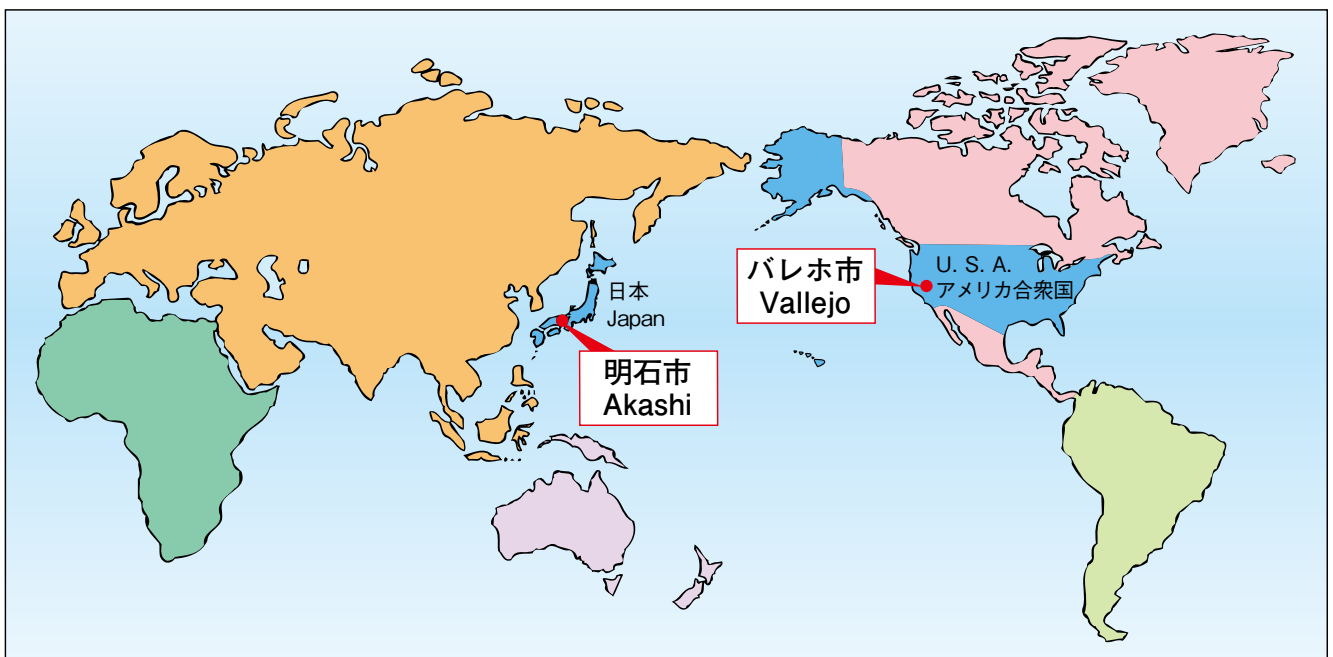
吉川政雄市長は、1968年12月24日にバレホ市を訪問し、フローレンス・E. ダグラス市長から姉妹都市提携証書と記念の“金のカギ”を贈られました。



—金のカギ—



—姉妹都市提携証書—



バレホ市の紹介

バレホ市 VALLEJO

アメリカ合衆国 カリフォルニア州

人口：約12万人

面積：約96km² (明石市の約2倍)



広域図



周辺図



明石との時差：-17時間

(例) 明石：午前8時

↓
バレホ：前日の午後3時

※バレホ市がサマータイム
適用の時は-16時間



バレホ市は、アメリカ合衆国の西海岸、カリフォルニア州サンフランシスコの北約50kmのところにあります。サンフランシスコ湾の北部に位置し、サンフランシスコから陸路・海路ともに約1時間で行くことができます。

明石市と同様に、海に面した平坦な地形で、西海岸ならではの美しい海岸線と豊かな緑、そして雨が少なく温暖な気候に恵まれており、緩やかな丘の上には住宅が立ち並び、保養地やベッドタウンとして有名です。

バレホ市の歴史と切り離すことができないのはメア・アイランド海軍造船所で、太平洋沿岸における合衆国初の海軍施設として1854年に設立され、1996年に閉鎖されるまで約150年にわたって操業していました。この間、造船所が世界最大規模の造船施設へと成長するにつれて、バレホ市の人口も増加し発展してきました。とりわけ1920年代からはフィリピン系住民が多く居住し、北カリフォルニア随一の文化的多様性を持つ街を作り上げています。



バレホ市役所



姉妹都市提携20周年を記念して明石市から贈られた日時計。奥に見える建物がフェリーターミナル。

街はのどかな雰囲気の中にも都会の快適さを備えており、病院や公園、図書館が整備され、カリフォルニア・マリタイム・アカデミーなどの高等教育機関も整っています。

また、海路としてサンフランシスコとを結ぶ定期フェリーが就航しているほか、サンフランシスコやカリフォルニア州都サクラメントとを結ぶ主要ハイウェイが、市内を南北に走っています。大都市や州立大学バークレー校などにも近いことから、通学・通勤者にもとても便利です。

さらに市内には、シャチやイルカなどと触れ合えるテーマパーク「シックスフラッグス ディスカバリー キングダム」や、景観の優れたゴルフコースがあります。バレホ市から少し足を伸ばすと、カリフォルニアワインの産地として有名なナパバレーやソノマバレーがあり、バレホ市を訪れる旅行者も多いようです。

～勝海舟とバレホ市～

日米両国の交わりの歴史において、バレホを舞台にした、大変重要で興味深い出来事があります。1860年(万延元年)に勝海舟の指揮する咸臨丸かんりんまるが太平洋横断に成功した際、最初に艦隊修理のために訪問したのが、バレホのメア・アイランドにあった海軍造船所(1996年に閉鎖)です。勝海舟以下乗組員一同は、20日間にわたりバレホで大歓迎を受け、数々の宴会が催されたという記録が残っています。これに感謝して勝艦長は、乗組員一同を代表してバレホ未亡人協会に対して120ドルの寄付を行ったということです。このようにバレホ市は約150年も前から日米友好に一役買っていたようです。

◆シックスフラッグス ディスカバリー キングダム

シックスフラッグス ディスカバリー キングダム(旧マリンワールド)は、1986年にバレホ市に誘致された、海洋水族館と野生動物園が融合したテーマパークです。シャチ、イルカなどの海洋生物の他、シマウマ、アリクイ、トラなどがおり、ゾウに乗ったり、イルカと触れ合ったりすることもできます。またジェットコースターなどの乗り物やキャラクターショーも楽しめ、バレホ最大の観光スポットになっています。



噴水の前で 明石市青少年訪米団 (2011年)

◆ウォーターフロント

ウォーターフロントは、バレホのレクリエーションの中心地です。一年中変化の少ない温暖な気候の中、人々は釣りやジョギングなどを楽しみ、夏になるとたくさんのヨットが帆を風になびかせています。サンフランシスコへのフェリー定期便が就航しており、約1時間で行くことができます。またフェリー乗り場には、1988年に明石市から贈られた日時計が設置されています。



◆海軍歴史博物館



バレホ市の歴史やメア・アイランドの旧海軍造船所などに関する常設展示が行われています。咸臨丸に関する資料も保管されています。建物は旧バレホ市役所です。

◆カリフォルニア・マリタイム・アカデミー

カリフォルニア・マリタイム・アカデミーは、4年制の州立の商船大学で海事産業に従事する専門家を育成しています。美しいキャンパスには、旅行者も自由に訪問することができます。練習船であるゴールデン・ベア号は、1987年と2007年に神戸港に寄港し、乗組員が明石を訪問するなど、交流を深めました。



練習船ゴールデン・ベア号

◆メア・アイランド

メア・アイランドの海軍造船所は、1854年の設立以来、1996年に閉鎖されるまでの約150年にわたり、世界最大級の造船施設を誇ってきました。バレホ市の発展とも深いつながりがあります。また、1860年に勝海舟が「咸臨丸」で初めて太平洋を横断し、アメリカに到着した時、修理に立ち寄ったことでも知られています。メア・アイランド歴史公園には造船所が閉鎖された現在でも、当時の歴史的な建物が多く保存されています。



かつての海軍高官の居住地域にある、美しい庭を備えた邸宅。現在では一般の結婚パーティー等にも貸し出されています。



セントピーターズ教会とティファニーのステンドグラス



◆バレホ近郊

バレホから北へ車で30分ほど行けば、ナパバレー(約23km)やソノマバレー(約37km)があり、一帯はカリフォルニアワインの産地としても有名です。ここにはたくさんのワイナリーがあり、ワインの醸造過程を見学・試飲することもでき、観光スポットとして人気があります。

